



TITLE:

# 平成14(2002)年度大学図書館職員 長期研修に参加して

AUTHOR(S):

呑海, 沙織

---

CITATION:

呑海, 沙織. 平成14(2002)年度大学図書館職員長期研修に参加して. 静脩  
2002, 39(3): 16-16

ISSUE DATE:

2002-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37688>

RIGHT:

## 平成14（2002）年度大学図書館職員長期研修に参加して

附属図書館情報管理課受入掛 香 海 沙 織

大学図書館を取り巻く環境は、大きく変わりつつある。

日本における高等教育は、明治19年に公布された帝国大学令による帝国大学の創設、第二次世界大戦後の新制大学設置に次ぐ、大きな変革期を迎えている。情報化、国際化などの社会的転換期であると共に、高等教育の大衆化、18歳人口の減少、生涯学習社会への転換などの要因により、高等教育変革の必要性が高まりつつある。平成14年3月26日には、「新しい「国立大学法人」像について（最終報告）」が発表され、「従来からの大学改革の流れを促進し、活力に富み、国際競争力のある大学作りの一環」として法人化が検討されることとなった。

高等教育の変革に加え、情報通信技術の発展は、大学図書館に多大な影響を与えている。インターネットの急速な普及と情報のデジタル化は、学術情報の生産・流通・利用・再生産のサイクルに大きな変化をもたらしている。また、メディアの多様化に起因する資料購入費の不足、洋雑誌等資料の高騰は、コレクション形成の貧困化や学術情報源へのアクセス環境の不備等、大学図書館に大きなダメージを与えている。

これらの変化は、大学図書館における日常業務にも確実に影響を与えている。にもかかわらず、根本的見直しが必要な業務においてさえ、じっくりと考える時間も精神的ゆとりもないのが現状である。問題意識として積み重ねなければならない日常業務における疑問も、断片として胸中に蓄積するばかりである。特に海外の図書館員から受ける質問は、私の問題意識を増幅させ、出口のないまま淵のように堆積していく。「心理学を専攻していた人が、どうして工学系の図書室で働いているのですか。」「あなたの図書館のポリシーは何ですか。」「どうして日本の

大学図書館員は選書を行わないのですか。」

平成14年度大学図書館職員長期研修に参加させていただく機会を得た。「係長を中心とする中堅職員に対し学術情報に関する最新の知識を教授し、職員の資質と能力の向上を図ることにより、大学図書館の情報提供サービス体制を充実させる」ことを目的とした、文部科学省・図書館情報大学共催の研修である。今年度は、全国から37名の大学図書館員が参加した。

この研修は、講義を中心に、共同研究討議、施設見学から成る。授業の内容は、1) 大学図書館の管理・運営、2) 大学改革と図書館、3) 電子図書館的機能の整備とその推進、4) 電子的資料の導入、5) 国立情報学研究所の活動、6) 多様化する情報サービス、7) 社会の変革と大学図書館、等多岐にわたった。全体を通じて感じたのは、大学図書館においても、自ら企画運営する主体性の育成が必要であるということである。それぞれの大学の特性や条件に合わせた魅力ある図書館を運営していくためには、ミッション・ステイトメントが不可欠である。何のために図書館はあるのか、図書館は何ができるのか、図書館はどこへ向かおうとしているのか、変革の時代だからこそ、しっかりと主体的に言葉で提示する必要がある。

心の中の「断片」が解決されることはなかったが、この研修を通じてそれをどう扱えばいいのか少し理解できたような気がする。3週間にわたる研修は、日常業務を離れて大学図書館について考える貴重な機会となった。末筆ではあるが、この研修でお世話になった方々に心より御礼申し上げたい。

（どんかい さおり）